

公開
講演会

地上絵とミイラ

ナスカにおける学術調査と遺跡保護

2015年 3月22日(日) 13:00~16:30

会場: 山形大学 (小白川キャンパス) 基盤教育2号館

一般公開 (参加無料/申込不要/定員200名[先着順]) 使用言語: 日本語・スペイン語 (逐語通訳あり)

山形大学のチームが取り組んでいる調査により、ナスカの地上絵は2000年以上にわたって作り続けられたことが明らかとなった。さらに、最新の理化学的分析は、地上絵研究に新たな視点を生みだしつつある。だが一方で、地上絵の破壊は日々進んでおり、その保護と保存は緊急課題となっている。今回の公開講演会では、地上絵をめぐる研究の最前線を提示するとともに、その保護活動についても紹介したい。



○山形駅東口より東方約2キロ ○山形駅東口より徒歩約25分 ○山形駅東口より県庁前行きバスで約5分…南高前(山大入口)下車10分 ○仙台駅前より山形行き高速バスで約60分 南高前(山大入口)下車10分 ※山形～仙台間の高速バスは平日80便、土日・祝日66便運行しています。

ごあいさつ

北川 忠明
(山形大学)

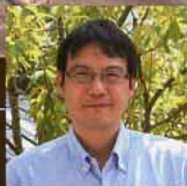
関雄二
(国立民族学博物館)

プログラム

●13:20~14:05

坂井 正人
(山形大学)

「世界遺産ナスカの地上絵に関する学術研究と保護活動」



●14:15~15:35

ミゲル・パソス
(ペルー国立ビジャリアル大学)

「ナスカの学術調査と文化遺産保護」



●15:45~16:30

瀧上 舞
(山形大学 / 日本学術振興会特別研究員)

「ミイラから見る先史アンデス文明の食性」



お問い合わせ先 — 山形大学人文学部事務室 山形市小白川町一丁目4-12 TEL023-628-4203

主催: 山形大学人文学部・新学術領域研究「古代アメリカの比較文明論」計画研究A03「アンデス比較文明論」(研究代表: 坂井正人)

協力: 古代アメリカ学会、文化遺産国際協力コンソーシアム
共催: 国立民族学博物館・科学研究費補助金基盤研究(S)「権力の生成と変容から見たアンデス文明史の再構築」(研究代表: 関雄二)

助成: 国際交流基金